

# Gikai Kamifurano

第123号

2024年7月25日

発行

## かみふらの 議会だより

6月定例会 8名の一般質問

人口減少対策

今後のまちづくりは？ など

厚生文教常任委員会

先進市町村行政調査

視察結果報告

本格議論始まる

議員定数・議員報酬調査

特別委員会を設置



今号の表紙写真

第62回認定こども園上富良野

高田幼稚園教育部・保育部運動会

暑さに負けず元気なかみふっ子

厚生文教常任委員会

# 取り組む!! 介護人材の確保

ちくまし ながわまち さかきまち  
**長野県千曲市、長和町、坂城町、群馬県昭和村**  
しょうわむら

## テーマ

「介護人材確保に取り組む」二つの社会福祉法人と

「休日の中学校部活動地域移行に行政主体で取り組む」自治体の現状を学ぶ

厚生文教常任委員会は、介護人材の確保策及び部活動の地域移行についてを学ぶため、令和6年5月15日及び16日に、長野県長和町及び坂城町、群馬県昭和村を訪問し研修を行った。

ながわまち  
群馬県昭和村の特別養護老人ホーム「菜の花館」

特別養護老人ホーム

一般的に介護職員の離

「ともしび」と「菜の花館」の両施設においては、

職理由は、①人間関係で

まず、職員の採用にあ

不足のため業務負担が増

たっては、ハローワーク

加している③勤務が不規

や専門学校就職説明会、

則になりがち④身体的負

職員のネットワークを駆

担が大きい⑤給与が低い

使しながら人材の確保に

⑥施設とスタンスが合わ

努められ、民間の紹介会

ない⑦ライフステージの

社を利用することもなく、

変化に対応できなかった

また外国人人材も活用し

ことからなどの理由が



が構築されていることが

伺えた。また福利厚生と

して、休暇制度が非常に

充実し各種手当を設ける

ことで金銭的な厚遇がな

されていた。職員研修

ること、そして結婚・出

産・子育て・介護など職

員のライフステージが変

わっても、短時間正規職

員制度や育児のサポート、

ワークライフバランス型

の短時間労働の制度を設

けることなどライフスタ

イルに合わせた支援制度

が充実していた。このよ

うに、離職率の低下に努

境づくりを最大の課題と位置づけ、就業環境の改善等に積極的に取り組んでいた。

また、職員に対しては、法人内のどの施設でも力を発揮出来るよう採用後の配置先を、特別養護老人ホームで研修を積ませ

ることで、施設間での人材不足の影響を最小限に抑えることも可能な体制整備が図られていた。

私は介護保険制度ができる前に退職しましたが、やりがいのある仕事でした。

介護を受ける年齢に近づいてきているので、若い方にも介護に対して希望が持てる職になると良いかと思います。

まちの声



酒井 美枝子さん

# 進む!! 部活動の地域移行

長野県千曲市、坂城町  
千曲坂城クラブ



国が進める公立中学校の休日部活動の地域移行に対応するため、長野県千曲市と坂城町が運営母体の「千曲坂城クラブ」を令和5年3月23日に発足した。圏内に民間のスポーツクラブなど既存の受け皿がないなどの理由で、両自治体の教育委員会が主導して設立した自治体主導型のクラブである。現在設立から1年が

経過し、スポーツ専門部13、文化芸術専門部5の18専門部が計画的に活動を進めており、令和5年度は、少なくとも月1〜2回程度の休日からスタートし、令和6年度には月2〜4回程度の休日を地域移行していく。令和7年度までには、すべての部で休日の部活動の一切を地域移行することを目標としており、休日はほぼ達成出来る見通しとのことであった。平日についても令和5

年度から可能な部から移行を始めていた。このように令和8年度の休日・平日完全移行に向けて段階的に地域移行を進めている。

千曲坂城クラブの魅力は、これまで自分の学校に入りたい部活がなかった生徒が、18の専門部を有する千曲坂城クラブに入ることで希望する活動の選択肢が増えることである。また1つの専門部だけではなく、平日はスポーツ部、休日は文化芸術部といった2つを選択することも可能となることから、活動の幅が広がり自分がやってみたいことがやれるという喜びが生まれる。さらには、現在の18の専門部以外でもやりたい生徒が複数いることや指導者がいれば新たな専門部を作ることが可能である。このことは、「こんな経験をさせた」「様々な活動で成長させたい」という保護者

のニーズに対応しており、学ばべき点であった。

設立から1年が経過しクラブ運営上の様々な課題が見えてきたが、課題解決に向け知恵を出し合い創り上げていく姿勢には感銘を受けた。今回視察を行った千曲坂城クラブのコーディネーターの「自治体主導型で立ち上げ良かった点は、民間のクラブとは違い保護者の方々に安心感を与えられたこと」という言葉が一番印象的であった。長野県下では珍しい自治体主導型の部活動の地域移行の先進事例を今回学ぶことができて、目指す理想は素晴らしいものであるし、少子化によりチームが組めないことや教員の働き方改革という待ったなしの課題解決のために、先陣を切って取り組む姿勢は賞賛に値した。

## まちの声



小浜 貴康さん 雅恵さん

我が家には現在、小学6年生と4年生の野球少年団に所属する2人の息子がおり、将来はプロ野球選手になりたいと言う息子達の応援をしています。

来年から上の息子は中学生になり、野球も続けたいと言っています。幸いにも今年度より上富良野中学校には野球部を担当してくれる職員の方が転入してくれていて、息子達の野球の指導には心配ないと思っています。

将来的には地域で部活動を支えていかななくてはならないとは思いますが、父兄が子どもの指導に入るのは大変だと思っています。



## 補正 予算

クリーンセンター設備修繕、高齢者等を対象とした新型コロナウイルスワクチン接種事業などの一般会計総額 336,495 千円、及び4つの特別会計補正予算が提出され各常任委員会での慎重審議を経て、全て原案のとおり可決されました。



## 議会 Pick up

### 「社会教育総合センター内壁タイル改修工事」 33,677 千円

令和5年6月にタイルの一部が落下したことから、社会教育総合センターコミュニティセンターの内壁を全て撤去しモルタル塗布、塗装仕上げとする工事を行います。



### 「B&G 海洋センタープール救護室電気設備工事」 775 千円

利用者の熱中症対策として、パネルハウス型救護ハウス（エアコン、ベッドなどの救護備品も含む）の配備にあたっての電気引き込み工事を行います。



## 定例会の概要

第2回定例会が6月13日から14日までの2日間の会期で開かれました。一般質問は8名の議員が行い、17項目にわたって、議論が交わされました。議会からは2件の意見書が提出されました。補正予算、条例改正なども審議され、全て原案のとおり可決されました。

## 発議

議会が一丸となって「より身近で開かれた議会」を目指し、令和2年に上富良野町議会活性化推進計画が策定されました。それから4年が経ち、施策項目など着実に一歩ずつ前には進めていますが、未だ道半ばであり、今定例会で「議員定数・議員報酬調査特別委員会」の設置が決議され、来年の3月に結果を報告するスケジュールで委員会を開催する運びとなっています。

詳細は改めてお伝えしますが、町民の皆様には、アンケートや議会懇談会参加のご協力をお願いする予定です。

## 意見書を国に提出しました

生涯を通じた歯科検診の実現を求める意見書

歯と口腔の健康は、生活習慣病の予防や全身の健康を維持・増進するために不可欠である。人生100年時代において健康寿命を延ばすためには、歯と口腔の健康が極めて重要で、そのためには、生涯を通じて継続的で切れ目のない歯科検診の受診が確保されることを求める。

ゼロカーボン北海道の実現に資する森林・林業・木材産業施策の充実・強化を求める意見書

北海道の森林は全国の4分の1を占め、2050年ゼロカーボン社会の実現に向けて、森林資源の循環利用を進める必要があることから、森林・林業・木材産業の充実・強化を図れるよう求める。

## 富良野広域連合議会

### 第1回臨時会

令和6年第1回富良野広域連合議会臨時会が6月4日に開催され、議案5件（補正予算案2件、財産の取得3件）が原案のとおり可決されました。

### お詫びと訂正 議会だより第122号

議会だより第122号の記載に誤りがありましたので、訂正してお詫び申し上げます。

7頁 誤	町の図書館事業	正	町の図書館事業
12頁 誤	工事負債契約	正	工事請負契約
22頁 誤	収支不足	正	収入不足
	脱炭素化	正	脱炭素化

# 上富良野のここが聞きたい!!

## 8名の議員が町政を問う

一般質問とは、年4回の定例会において議員が住民の声や自身の考えなどにより、町政全般にわたって執行者の考えをたずねるものです。

議会だよりではスペースの都合上、質問と答弁を要約して掲載しています。

詳細は後日、行政ホームページに会議録を掲載します。

議場では臨場感のあるやり取りを傍聴することができます。ぜひ、議場へお越しください。



金子 益三 議員

- ① 人口減少時代の中における今後の広域行政のあり方について



林 敬永 議員

- ① 人口減少対策について
- ② 上富良野町自治基本条例について



小林 啓太 議員

- ① 上富良野町立病院経営強化プランについて
- ② オンライン診療などについて



湯川 千悦子 議員

- ① 健康づくり推進に向けたポイント活用について
- ② 民生委員・児童委員の担当する地域差について



米澤 義英 議員

- ① 物価高騰から暮らしを守る政策について
- ② 保育行政について
- ③ 中学校入学時における保育者負担の軽減について
- ④ 富良野線の維持存続について



佐藤 大輔 議員

- ① 中富良野町葬斎場の共同利用について
- ② 島津公園の整備と将来像について



荒生 博一 議員

- ① 町職員の兼業について
- ② クマ出没時の対応について
- ③ ラベンダーフェスタかみふらのについて



島田 政志 議員

- ① 第9次上富良野町農業振興計画について



- ・クールビズ実施期間中につきネクタイ着用の義務付けはされていません。
- ・一般質問のページは質問議員本人により編集されています。

影響

# 人口減少にどう向き合うのか

町長－減少することを前提に課題としている

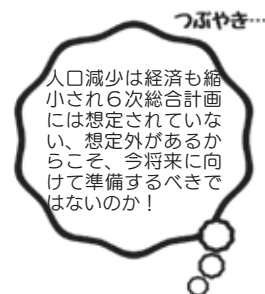
**林議員** 町の人口が令和6年3月31日現在9千814人と1万人を下回る現状にあり高齢化が進行している現状にある。

こうした現状は、町の様々な政策に影響を与えるものである。人口減少に対応したまちづくりをどう進めていくのか次の点について伺う。

まちづくりへの影響について、どのように捉えているか。

**斉藤町長** 人口の目標は、すでに減少することを前提にすべての分野において課題として捉えているため現時点では、計画の見直し等の影響はないと考えている。

**林議員** 第6次総合計画の後期基本計画で取り組



2023年まちづくりフォーラムの様子

む具体的な事業を伺う。

**斉藤町長** 商工業分野では雇用対策、新規開業支援、企業誘致の取り組み。観光交流分野では、交流人口や関係人口の拡大、移住促進。住環境分野では、空き家・空地の有効活用などを予定している。

**林議員** 人口減少に伴う町民とのコンセンサスをどのように進めていくのか伺う。

**斉藤町長** まちづくりの基本である総合計画には、人口減少を前提に策定されていることから、策定までの取り組みや議会で議決を踏まえ、合意はされているものと受けとめている。



林 敬永 議員

**上富良野町自治基本条例の運用について**

**林議員** 制定から15年余りが経過した上富良野町自治基本条例を基に進められているまちづくりについて伺う。

現在までのように進めて来られたのか。

**斉藤町長** 条例に則った形で行政運営を進めてきた。

**林議員** 公正で開かれた町政運営を進めるため、情報の積極的な公開と共有に努めなければならぬとされているが、この情報公開について、現在どのように進められているのか伺う。

**斉藤町長** 広報紙やHPでの周知や公表を主なものと、町長と語ろう

や住民会長懇談会などの広聴活動、各種会議などで情報の共有を図っている。求めに応じて情報公開条例により行政資料を公開している。

**林議員** 町は、町民からの信託を受け仕事をしており、町民にその仕事の内容を具体的に説明する義務がある、と書かれているが、上富良野町葬斎場について今後の私達町民に対してどのように説明されていくのか。

**斉藤町長** 住民会長懇談会や町長と語ろうなどの機会や町民の皆様のご意見を伺ってきた。引き続き今事業の取り組みについては、町民の皆様にご説明を行うので、ご理解を願う。



自治基本条例は、平成13年二セコ町で施行され平成10年代後半に全国に広がり、当町においても平成16年から取り組みを進め約4年の審議を経て平成21年4月制定された。



健康

# 健康づくり推進に向けたポイント活用を

町長－健康課題の解決にはならず導入は考えていない

つぶやき…

活用策の脈をよりよく  
ポイントで、上富良野に  
実施、やかなるよね！



湯川 千悦子 議員

**湯川議員** 町民の健康意識と活動を高めるために、スマートフォンアプリの活用、誰もが気軽に取り組めるウォーキングによる歩いた距離をポイントに換算して貯めたポイントを町内の事業所で使えるなど楽しみながら実益を兼ねて健康促進が出来るようになるかがか。

**齊藤町長** ポイントの導入には多額な費用や管理体制が必要となる。一時的な効果が得られたとしても長期的な健康課題の解決にはならずポイント制度導入は考えていない。

**湯川議員** 高齢者のひきこもり防止のため、住民会や各サークルが行う健康増進活動へ、町からの

補助の拡充や資格更新への支援などは考えてないか。

**齊藤町長** 町内における高齢者ひきこもり防止の活動として、当町においては、ふまねっと運動が各地域で盛んに行われて



住民会で行われているふまねっと運動

いる。活動に対する補助金や指導者育成に係る費用は、町の介護予防普及啓発事業などにより補助を行っており、引き続き必要に応じた対応を図っていく。

民生委員・児童委員の担当する地域差の解消は

**湯川議員** 民生委員・児童委員の活動負担を平準化することが必要と考えるが、その対策は。

**齊藤町長** これまでも任期改選の折に地区割の変更など対応してきたところではあるが、地域によつては担当世帯数が多くなっているところもあるのが現状となっている。

今年度からの負担軽減策として高齢者実態調査の簡素化や既に介護認定を受けている方についての調査項目の省略など、負担軽減を図った所である。

**湯川議員** 特に過密状態の地域では、改選期には苦勞されているようである。

るため、実情に合った再配置や、人員の適正化、それに加えて今後の成り手不足に対応する報酬のあり方について更に検討が必要と考えるが。

**齊藤町長** 活動の平準化、軽減も含めて、成り手不足は、どの団体も顕著化しているため、しっかりと検討していく。



ひとくちメモ

「ポイント」とは、《さまざまな方法でポイントを貯める活動》、もしくは《貯めたポイントを活用する方法》の略称。（諸説あり）。ポイントはクレジット決済だけでなく、他のキャッシュレス決済や店舗独自の会員カード、ポイントサイトなどでも、それぞれの利用条件に応じて付与される。

墓地

# 葬斎場跡地に合同墓の設置を

町長－現段階では検討していない

**斉藤町長** 今後数年間、火葬件数は横ばいで推移することが予想され、富良野市、中富良野町との相互利用の原則からも炉

を1つにすることは現実的ではない。  
**佐藤議員** 昨年9月に交わされた基本合意書により、中富良野町西山火葬場の共同利用に向け一歩踏み出した。そのことにより今の葬斎場は解体される見通しとなっている。また前段階として、仮に新たな葬斎場を我が町に建設する際にかかる費用は概算で約15億円と示された。この金額は、現葬斎場と同規模での改築を見込んだ場合とのことであるが、炉を1箇所にすることや待合室を無くすことは検討しなかったのか。

つぶやき…  
人口減少や少子高齢化が進む中、合同墓設置のニーズは益々高まっているように思うのだが…



道内他の自治体の合同墓

**佐藤議員** 炉を2つにすることはやむを得ないとして、今の葬儀形態に鑑み待合室を無くすことは検討しなかったのか。

**斉藤町長** 待合室の無い  
**佐藤議員** 葬斎場は現実的ではなく、全く検討していない。  
**佐藤議員** 葬斎場の件については、もう少し丁寧な説明があっても良かったのでは。情報提供のあり方について見解を伺う。



佐藤 大輔 議員

**斉藤町長** 西山火葬場が老朽化した際の設置箇所について未定であることや、梵鐘などの私有物も残っていることから跡地

会等で十分説明を果たしているし、理解もいただいている。  
**佐藤議員** 今回の葬斎場の件に関して、今後の公共施設整備の優先順位等を考えると致し方ないと頭ではわかっているが、腑に落ちないと訴える町民も少なくない。  
このような方々の心情に寄り添いながら跡地を有効に活用する方策として、また以前から設置を求める町民の声にこたえるためにも、現葬斎場解体跡地に合同墓地の建設を検討してはいかがか。



上富良野葬斎場は昭和49年に供用を開始し施設の老朽化が進んでいる。一部の部品は供給が終了し、緊急の故障対応が難しい状態にある。

をすぐに活用することは出来ない。合同墓設置のニーズは認識しているが、葬斎場の跡地利用とは別の問題である。  
**佐藤議員** 例えば中央霊園など、別の場所に合同墓を設置することについての考えは。  
**斉藤町長** 現時点では考えていない。  
**佐藤議員** 何が一番のネックになっているのか。  
**斉藤町長** 町内には寺院の納骨堂があり、公設公営の合同墓を設置することで直接の利害関係が生じる。これが非常に大きな問題だと考えている。





人口

# 人口減少時代の広域行政の在り方は

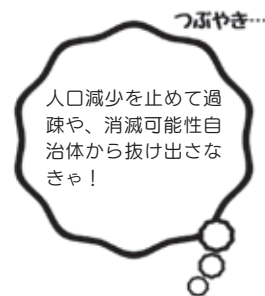
町長－人口が全てでは無く町民の幸せが目標

**金子議員** 町の人口減少が深刻な問題となり1万人を割った。人口戦略会議では上富良野町は「消滅可能性自治体」に位置付けられた。人口減少が進んでも福祉・介護・医療など今の行政サービスを安定的に継続できるのか。定住自立圏など広域行政による運営は。

**斉藤町長** 定住自立圏での医療分野協定で富良野協会病院との連携を推進し、充実を図っている。

**金子議員** 協会病院には救急、周産期医療に広域で分担金を支払っている医師、医療スタッフの確保を広域で協力して行わないか。

**斉藤町長** 旭川医大との連携を継続し、圏域とし



上富良野町 人口と世帯		
男	4966人	
女	4833人	
計	9799人	
世帯	5222世帯	
6月末日現在		

1万人を割った上富良野町の人口

て医師不足解消に進んでいきたい。

**金子議員** 介護分野での広域化は進めないか。

**斉藤町長** 介護分野等エッセンシャルワーカーの確保も課題であるので広域的取り組みの有効性を検討していく。

**金子議員** 広域での介護施設集約化とサテライト化による人員確保は行わないか。

**斉藤町長** 官民を問わず、い。さらなる広域化は行わない。

**金子議員** 中富良野町と運営している児童発達支援等の事業は広域を拡充するのか。

**斉藤町長** 今後も療育指導のスタッフの安定的確保を図りながら、両町の児童発達支援事業を継続して運営していくので、



金子 益三 議員

**金子議員** 子育てに関わる保育士や支援に関わる職員確保に対して対策は講じないか。

**斉藤町長** 今年の春に町長指示事項として、特に保育士をはじめ看護師、介護士等の確保に向けて対策を指示した。実現化に向けて様々議論をしていく。

**金子議員** 富良野圏域でゴミ処理における共通の取組を進めていく考えはないのか。

**斉藤町長** これからも一般廃棄物広域分担処理検討会議において調査・研究を進めていく。

**金子議員** 給食センターの改修は行わないか。

**鈴木教育長** 当面は3センター方式を継続し運営するが、児童生徒数の推移や各施設の状況も含め、関係市町村間で共有し将来の運営体制について検討を進めることを確認している。

**金子議員** 消滅可能性自治体や過疎指定からの脱却をどう捉えるか。

**斉藤町長** 人口減少で過疎指定や、消滅可能性自治体にも指定されたが、人口だけが全てでない。しかし人口減少で困ることがあるので、人口がある程度減っても回るように福祉、子育て、産業もしっかり見据えて行政運営していくことが非常に重要と考える。住んでいる町民が幸せと思うことが最終目標である。



消滅可能性自治体とは…2020年から2050年までに20歳から39歳までの女性人口が5割以上減少する市町村。北海道では117の市町村が該当し、上川管内では12市町村、富良野圏域では上富良野町だけ。





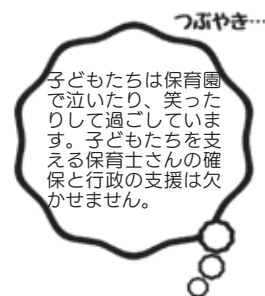
子育て

# 保育士確保の支援対策を

町長一町にできることを検討研究したい

**米澤議員** 保護者が仕事などの理由で子どもが保育に欠ける時、保育をしなければならぬとされている。町においてその役割を担っているのがこども園である。保育の現場では、保育士の確保が困難な中で動きのある子どもたちを見なければならぬ状況にある。保育所では処遇改善など独自の改善策を行っている。他の自治体では、就労するための支援準備金、家賃補助など、保育士確保の対策を講じているが、町においても、保育園と協議をし、対策をとるべきでは。

**斉藤町長** 町内の認定こども園において、保育士の確保が難しい状況に



子どもたちの元気な声が聞えるこども園

いては、会議等で情報共有を図っており、園独自の手法で確保対策を実施していることも伺っている。子どもたちを安心して安全に保育するためには、保育士の確保が重要であるため、当町にお

ても、他自治体の事例を研究し、園と協議のうえ、今後の保育士確保対策について検討をしている。



米澤 義英 議員

**米澤議員** 物価の高騰で町民の暮らし向きは大変な状況になっている。厚生労働省の毎月労働統計調査でも、実質賃金は25か月減少、実質消費率も低下していると指摘している。多くの町民は、生活に必要な物以外はなるべく買わないようにしている人が増えている。町民の暮らしを守る支援策を早急に行うべきでは。

**斉藤町長** 物価高騰から暮らしを守る政策については、国において、定額減税をはじめとする物価高騰対策の措置が講じられており、令和5年度分の課税状況が確定した後算定に入るため、できる



保育士の配置基準は、子どもの年齢ごとに定められた、最低限必要な保育士の数です。子どもたちが、安全に過ごせるように、保育士の数が決められています。



物価高騰の影響を受けている食料品

だけ早期の支援に向け準備を行っている。

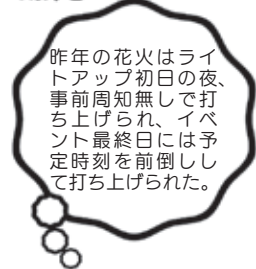
また、昨年度は、エネルギー・食料品価格等の物価高騰を受け、家庭への影響が大きい低所得世帯に対する臨時的な措置として、物価高騰緊急対策事業を実施したが、非課税世帯だけではなく所得割のみ非課税世帯に対するの助成を行うなど、独自の施策については、今後の動向を見ながらその対策を講じていきたい。

祭り

# 花火打ち上げについて今年度の計画は

## 町長ーライトアップ初日に小規模な花火を

つふやき…



荒生 博一 議員

**荒生議員**

来場者から期待する声が聞かれる花火打ち上げについて、今年度はどのような内容で計画されているのか。

**斉藤町長**

昨年度は昼夜を通してイベントのある当日に打ち上げを行ったため、花火を観覧に訪れる来場者が殺到し会場内、駐車場のみならず道道、町道など広範囲にわたり混雑、渋滞が発生したことで来場者、近隣住民を含め非常に危険な状態であったとの指摘があった。

運営委員会において臨時駐車場の運用や交通規制の改善等、安全に実施する方法を模索したが抜本的な改善策を見出すには至らず、本年度についてはイベント当日の大規模な花火大会の実施は見送り、ライトアップ初日の点灯式において小規模な花火を打ちあげることと決定された。

**荒生議員**

町民、私、子どもたちも含め9割強の方が従前の花と炎の四季彩まつりから、ずっとまつりイコール花火である。ぜひ来年同時開催、もし

くは別日どちらでもいいのでは非花火打ち上げを。 **斉藤町長** 全く私もそういう気持ちである。やはり町民皆が花火は町民向けでもあり、夏の風物詩でもあるので、何とか実現できるよう関係団体と今後検討し、実現に向けて進んでいきたい。



2021年より開催のラベンダーフェスタかみふらの

**学校での熊出没時の対応マニュアルは**

**荒生議員**

学校での熊出没時の対応マニュアルは、

**鈴木教育長**

平成22年に

子どもの危機管理初期対応マニュアルを作成し、随時改訂して児童生徒の安全確保に努めている。昨年9月28日上富良野小学校周辺で熊出没が確認された際には、目撃の一報があった後、直ちにその旨を各小中学校へ伝えるとともに、情報収集に努め、その後の対応については、熊の出没は児童生徒の登校後であったことから下校時への対応として、保護者による迎えの依頼、教職員同行による集団下校の実施、帰宅後の外出自粛

等を決定し、保護者に対して一斉通知を行った。その後、町、警察、猟友会による熊の移動経路調査の情報から翌日の休校は必要なしと判断し、10月2日警戒解除まで町及び教育委員会職員による登下校時のパトロールや通学路での立哨により、児童の安全確保を最優先として対応した。

これを機に、上富良野西小学校の「子どもの危機管理初期対応マニュアル」に熊出没時の対応について追記されたことから、教育委員会、他の小中学校のマニュアルについても本年度見直しを進め、避難訓練や防犯訓練等において安全教育に務めていきたい。

ひとくちメモ

昨年、ヒグマに襲われ9人が死傷した北海道内では、推定される生息数が30年前と比べて23倍に増えており、推定個体数は1万2千頭とされている。



5月14日	厚生文教常任委員会
23日	先進市町村行政調査（～17日） 議会運営委員会
6月3日	厚生文教常任委員会
5日	総務産建常任委員会
6日	議会運営委員会
7日	全員協議会、議会広報特別委員会
13日	第2回定例会（1日目）
14日	第2回定例会（2日目） 議会広報特別委員会
17日	全員協議会 議員定数・議員報酬 調査特別委員会（第1回） 先進地調査（～3日） 道議長会全道議員研修会
7月2日	議会広報特別委員会 総務産建常任委員会 議会広報特別委員会 議会運営委員会 第2回臨時会、全員協議会 議員定数・議員報酬 調査特別委員会（第2回）

◆議員研修会・先進地視察研修報告

7月2日に全道町村議長会主催の研修会が札幌コンベンションセンターで開催されました。講師である気象予報士の森朗氏は、「これまでのデータから年平均気温は、いずれ札幌が東京を抜くかもしれない」という仮説から、急激な気候変動への対応力を強化するよう、また元衆議院議長の大島理森氏は地方の人口減少対策として「人々の協同行動が活発化することにより社会の効率性を高めることができる」という考え方が大切である」とし、自立しながら補い合う多面的広域的連携の重要性を、両氏それぞれ力を込めてお話されました。

翌3日は北電ネットワーク㈱南早来変電所に赴き、大型蓄電池の施設を見学しました。昨今、省エネ電力を無駄なく使うために蓄電池の需要は高まっていますが、送電網の容量が課題であり、北電ネットワークでは送電網の増強と、適地への蓄電池設置を促すための所有地の貸し出しを進めていました。

◆北海道町村議会議長会より表彰

岡本康裕副議長が町議会議員として15年以上、議会制度の高揚と、地方自治の振興・発展に功労され、北海道町村議会議長会会長より6月11日に表彰されました。



編集後記

■時間の過ぎるのは早いもので、町議会議員となり11か月が経過しました。今日まで定例町議会を4回経験し、この間3回の一般質問をしましたが、行政の進め方には「はて？」が残るところばかりですが、これからも、町の課題について質問し続けていきます。

■6月定例町議会で、議員定数・議員報酬調査特別委員会が設置されることになりました。上富良野町の直接選挙で無投票選挙になった記憶はありませんが、人口減少に伴い右肩下がりの人口の自治体で、14名の議員定数について検討され来年3月に提案される予定です。

■毎日暑い日が続いています。気象庁の天気予報を見ると向こう3か月は、気温の高い日が見込まれるそうです。暑い夏がまたやってきますが、くれぐれも体調管理には気をつけましょう。

（林 記）

議会広報特別委員会

委員長	佐藤 大輔
副委員長	井村 悦丈
委員	湯川 千悦子
	林 敬 永
	茶谷 朋 弘
	島田 政 志